

項目	内容
名称	ベニバナ (紅花)、コウカ、スエツムハナ、クレノアイ [英]Safflower、Safflor [学名]Carthamus tinctorius L.
概要	<p>ベニバナは、エジプト原産といわれ、世界各地で古くから染料や食用に栽培されてきた植物であり、主に種子油と花が注目され利用されている。</p>  <p>写真提供: 東京都健康安全研究センター</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ベニバナ (コウカ/サフラワー/ベニバナ油/Carthamus tinctorius) 管状花、種子油、種子：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。 <p>■ 日本薬局方</p>

・コウカが記載されている。

■ 食品添加物

・既存添加物

ベニバナ赤色素 (カーサマス赤色素/フラボノイド色素/紅花赤/紅花色素) : 着色料
ベニバナ黄色素 (カーサマス黄色素/フラボノイド色素/紅花赤/紅花色素) : 着色料

・既存添加物

ベニバナ (サフラワー) が記載されている。

成分の特性・品質

主な成分・性質

・脂肪油、フラボノイドを含む。花は色素として紅色色素カルタミン (cartamin) 0.3~0.6%、黄色色素サフラワイエロー (safflower yellow) またはサフロミン (safflomin) 20~30%を含む。種子油はリノール酸グリセリドを多量に含む。またリノレン酸を含む。

・薬用部分は花 (紅花<コウカ>) 乾燥させて用いる。6月から7月にかけて早朝に花を摘みとり、水洗いして黄色の色素を抜き、2~3日発酵させてもみ、もち状になったものを適当な大きさにちぎり、ムシロにはさんでおく。エジプト原産とされ、各地で栽培される。高さ40 cm~1.3 m。花期は6月~7月 (29)。

分析法

-

有効性

循環器・
呼吸器

調べた文献の中に見当たらない。

消化系・肝臓

調べた文献の中に見当たらない。

糖尿病・
内分泌

調べた文献の中に見当たらない。

ヒ
ト
で
の
評
価

生殖・泌尿器

調べた文献の中に見当たらない。

脳・神経・
感覚器

調べた文献の中に見当たらない。

免疫・がん・
炎症

調べた文献の中に見当たらない。

骨・筋肉

調べた文献の中に見当たらない。

発育・成長

調べた文献の中に見当たらない。

肥満

調べた文献の中に見当たらない。

その他

調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館
(18) 和漢薬百科図鑑 I/II 保育社 難波恒雄 著
(20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(23) 天然食品・薬品・化粧品等の事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳
(24) 漢方薬理学 南山堂 高木敬次郎ら 監修
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
[\(PMID:22395857\) J Assist Reprod Genet. 2012 May;29\(5\):457-61.](#)
[\(PMID:26281312\) Turk J Med Sci. 2015;45\(3\):496-506.](#)
[\(PMID:29579831\) Transplant Proc. 2018 Mar;50\(2\):476-477.](#)